北九州市の文化財を守る会

会　報

No.27　54. 5. 15

発行　北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区城内1－1
北九州市教育委員会文化課内
電話　582－2389

印刷　博文堂印刷所
北九州市小倉北区長浜町2番22号
電話　511－1011

会長に加瀬康作氏を選出

昭和五十四年度総会

四月二十八日午後二時三十分から市立視聴覚センター研修室で、昭和五十四年度総会が開かれました。

局哲平会長の開会あいさつがあったあと、座長に米津三郎副会長を選んで議事に入りました。先ず、昭和五十三年度決算報告及び同事業報告があり、審議の結果いずれも原案どおり承認されました。次いで任期満了に伴う役員人事のうち、総会で決めるべき会長の選出を行い万場一致で前副会長の加瀬康作氏を選出しました。副会長以下の役員については、会則に基づき会長が次記の方々に委嘱しました。

なお、局前会長には顧問として引続き本会の発展に御尽力いただくことになりました。

最後に昭和五十四年度予算案及び同事業計画案が審議され、いずれも原案どおり可決されました。今年度予算の中で特に注目すべきことは、支部活動強化の一つとして新たに支部活動費を設けたことです。

なお、今年度事業計画として会員名簿の作成を決定しましたが、これは前回の名簿作成の後、会員が大幅に増加していることと、任期満了に伴い新役員が決定したことによるものです。名簿作成時（八月一日）を目標に会員各位の積極的な入会勧誘をお願いします。

議事終了後、文化財映画「日本の建築」が上映されました。

加瀬康作（かせこうさく）　会長

住所　八幡西区西鳴水二丁目十一番五号

西南学院大学卒。昭和三十三年八幡製鉄所を定年退職、(株)加瀬商会を創立。現在、(株)シオン会長。この間旧八幡市教育委員長、西南女学院理事長を歴任し、現在、市社会教育委員、西南女学院理事などに就任。明治三十五年一月二十八日生。

新役員

顧問	一条　高奎	八幡東	黒野　肇
局	哲平　春永　孚	八幡西	政時　義明
久野	繁樹　美和弥之助	戸畑	伊崎吉兵衛　小島　思一
吉田	一芳　劉　寒吉	理事	
会長	加瀬　康作	門司	大田　章　香月　利邦
副会長	門司　宣里　米津　三郎	木村	照彦　是則　宗興
支部長		小倉北	岩崎　栄　黒田　照豊
門司	石崎　巌	中村	雄三　綿森　利雄
小倉北	大隈　岩雄	小倉南	岡田　始　勝本　秀道
小倉南	中村　穣徳	清川	泉　千代丸頼光
若松	藤田　敏夫	溝口	連　森山右衛門
八幡東	小川　久雄	若松	安倍　芳一　伊藤　頼行
八幡西	能美　安男	八幡東	柴田　六郎　垂水　洋
戸畑	福田　安敏	河野	益武　村田　東作
常任理事		本松	馨
門司	吉岡　成夫	八幡西	大久保数光　竹中　岩夫
小倉北	今村　元市　吉田美智子	前田	勇
小倉南	池上　重信　中尾　多聞	戸畑	林　三可　安田富美子
若松	森川　政美	監事	大神　文和　松崎　武俊
		会計	事務局

（敬称略順不同）

昭和54年度事業計画

会報の発行
- 第27号（5月15日、事務局）
- 第28号（8月15日、小倉南支部）
- 第29号（11月15日、小倉北支部）
- 第30号（2月15日、門司支部）

バスによる文化財めぐり
- 第17回（6月10日）久留米市
- 第18回（10月上旬）未定

リーフレットの配布
- 「北九州市の文化財」

会員名簿の作成（8月1日）

支部自主事業

文化財保護強調週間行事
- 文化財映画映写会（市教委と共催）

文化財防火デー行事

バスによる文化財めぐり

第十七回バスによる文化財めぐりは「水と緑のまち」久留米を訪ねることにしました。当日の説明には久留米市文化財専門委員の古賀幸雄先生を予定しています。参加ご希望の方は早めにお申込みください。

日　時　六月十日（日）雨天決行
参加資格　本会会員
参加料　一人につき　四千円
募集人員　四十五人（先着順）
締切日　六月四日（月）
申込方法　参加料を添え直接事務局まで
集合場所と出発時間　若松区役所前　午前七時三十分
小倉駅北口　午前七時四十五分
昼食時間　高良大社で三十分
境内（高良会館）に食堂があります
帰路　小倉駅着午後七時予定

昭和53年度の会のあゆみ

4.8	役員会、総会開催 映画「広寿山の美術」上映
4.15	会報 No.23発行（事務局） 会員に「小倉の森鴎外遺跡」を配布
5.28	第15回バスによる文化財めぐり（中津市）
7.15	会報 No.24発行（八幡西支部）
9.3	第16回バスによる文化財めぐり（宇佐市）
10.15	会報 No.25発行（八幡東支部）
11.1～7	文化財保護強調週間行事 文化財映画映写会の実施 若松文化体育館（11.7） 小倉南市民センター（11.8）
1.15	会報 No.26発行（若松支部）
1.26	文化財防火デー行事参加

見学先

（コース順）

善導寺　浄土宗九州大本山で、建久二年（一一九一）聖光（しょうこう）（鎮西）上人の開基。紺紙金泥観普賢経、木造善導大師坐像、木造大紹正宗国師坐像（いずれも重文）、紙本著色本朝祖師伝絵詞、梵鐘（いずれも県指定）など多くの文化財が保存されている。

高良大社　高良山（三一二メートル）の山頂近くに鎮座し、高良玉垂命ほか三坐を祀る柿葺（こけらぶき）、権現造の社殿。西暦四百年の創建といわれ、古くは九州の総社と称せられていた。本殿、弊殿、拝殿、石造大鳥居（いずれも重文）のほか、紙本墨書平家物語（重文）など数多くの文化財が保存されている。

また、高良山神籠石や高良山のモウソウキンメイチク林（いずれも国指定）も見学する。

久留米城跡　旧有馬藩二十一万石有馬侯の旧居。台上には初代藩主有馬豊氏ほか四柱を祀る篠山神社歴代藩主の遺品、遺墨を陳列した有馬記念館がある。

水天宮　全国水天宮の総本宮で約七八〇年前の建久初年の創建という。祭神は天御中主大神ほか三座で、安産、子供の守護神として信仰があつい。

梅林寺　臨済宗妙心寺派の巨刹で鎮西一の禅林道場。有馬藩主の菩提寺。

事務局だより

◇昭和五十四年度総会は、本会発足以来副会長を務めてこられた加瀬康作前副会長を新会長に選出して、去る四月二十八日無事終了しました。

◇局哲平前会長には公務ご多忙の中、二期四年間会長の重職を務めていただきまして本当におつかれさまでした。

◇会報二十七号ができあがりましたのでお届けします。今回は事務局の担当です。

◇次回の担当は小倉南支部で、発行は八月十五日の予定です。

◇市教育委員会が発行したリーフレット「北九州市の文化財」を会員の皆さんに配布しますので、ご活用してください。

◇事業計画にありますように、会員名簿（氏名、住所、郵便番号、電話番号を記載）を八月一日に発行しますので、住所変更などがありましたら七月一日までに事務局まで連絡して下さい。

◇始めての試みであります支部自主事業が、成功しますよう会員の皆さんのご協力をお願いします。

◇今年度会費（据置）を事務局に持参することが困難な方は、同封の振込用紙をご利用のうえ、お早めに納入ください。

（年間会費）
一般会員千円、賛助一口　一万円
学校関係千円、一般団体　三千円

刊行物案内

「郷土八幡」
八幡郷土史会が昭和54年3月に発行した機関紙第2号。　B5版、100ページ
発行　八幡郷土史会
頒価　1,000円（送料160円）
取扱　八幡東区帆柱一丁目10－7
木村幸雄（電話681－8813）

「増補　新豊前人物評伝」
昭和49年7月に刊行した「新豊前人物評伝」（豊前人363人の評伝）が品切れとなったので その後、物故された27人の名士の評伝を加えて「増補版」として出版。B6版、600ページ
著者　中村十生
頒価　2,000円（送料200円）
取扱　小倉北区金田二丁目5－11
文信堂印刷所内（電話561－4981）
新豊前人物評伝刊行会

「北九州の歴史年表」　頒価　100円
「北九州市の文化財」　頒価　800円
「小倉南区の古城跡と文化財」（2冊組）頒価　600円

いずれも取扱は本会事務局

新指定文化財の紹介

北九州市は去る三月二十二日、昭和五十三年度市指定文化財として、次の四件の文化財を新たに指定しました。

これで市内の指定文化財は、国指定四件、県指定四十五件、市指定三十一件のあわせて八十件となりました。

有形文化財（彫刻）

銅造阿弥陀如来立像　一軀

所在地　小倉南区葛原
所有地　称名院
形　状　像高　五〇・四センチ

本像は大きさ、形態とも善光寺式阿弥陀像と呼ばれる形式に属する仏像である。

この形式は、一光三尊（一つの光背に脇侍まで入る形式）の光背を負い、中尊は通肩の納衣をつけ右手は肘から曲げて上げ、掌を前にして立てる施無畏印、左手はわずかに肘を曲げて垂らし、第二、三指を伸ばして刀印を結ぶ印相、両脇侍の観音、勢至は胸前に両手で宝珠を抱いた形に造られる。

本像は銅の一鋳造、ただし両手下蹲部中央より先を別鋳し、蟻枘で留めている。目や衣文に鏨彫のあとを残し、体部各所にも鍍金のあとがみられる。光背、両脇侍は本来のものは失われ、現在のものは後補である。衣文の表現に形式化がみえ、顔の表情、螺髪の大きな刻みにも時代の降下がみえるが全体的には鎌倉時代の善光寺式阿弥陀像の作風を残しており、製作年代は鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての十四世紀ごろと推定される。鋳上りも良く、また全体に整っており、北九州における仏像彫刻の遺例として注目すべき作品ということができる。

この善光寺式阿弥陀像は、善光寺、新善光寺を中心に遺例も多いが、関東、中部地方に主に分布し九州では現在のところ、大分二例宮崎一例、熊本一例が知られているだけである。

銅造阿弥陀如来立像

有形文化財（古文書）

平野文書　二十四通
付関係近世文書　二十三点

所在地　小倉南区吉田
所有者　平野氏孝
形　状　一紙　折紙等

綿津美神社宮司　平野家に伝来した鎌倉時代末期の元徳二年（一三三〇）から戦国時代末期の永禄十一年（一五六八）までのものである。この文書から、鎌倉時代末期の吉田村には龍王社（のち綿津美神社）、八幡社、氏社の三社があり、当時、豊前地方に勢力をもっていた少弐、大友、大内などの豪族と関係があったことがうかがえる。また、のちに大内氏の領国となった豊前国の支配機構や組織をかなり正確に把握できる。さらに規矩郡の段銭奉行として、頂吉門司両氏の活動がみえるが、これは京都、築上と同様に国人の武士を任用して地方支配の機構を確立していった事が実証できる。

近世文書は、前記中世文書の写し、神道裁許状などであるが、特に中世文書の写しの中には、原本がすでに逸失しているものもあり重要なものである。

次頁の文書（写真）は、沙弥崇観寄進状であるが、この崇観という人物は鎌倉時代初期、源頼朝の命により北九州にくだった武藤氏の一族である。

寄進　豊前国吉田村氏社
　　稗畑四段廿事

右、天長地久御願圓満ノ爲寄進奉ル所也。此上者霜月御祭礼ヲ致シ、子々孫々迄宮司知行ヲ全シ祈祷忠節ヲ致ス可の状件ノ如シ

元徳二年寅午十月十一日　沙弥崇観

有形文化財（古文書）

一田家文書　二百九十五点

所在地　八幡西区相生町　八幡西市民センター郷土資料室
所有者　一田七平
形　状　一紙、切紙、書冊等

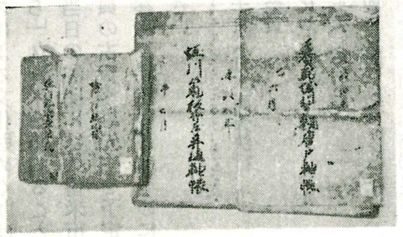
代々堀川受持（堀川庄屋）をつとめた一田家に伝来したものである。

一田家は、堀川開削工事（宝暦元年＝一七五一～同十二年＝一七六二）の功により、堀川受持の役に任ぜられた久作より代々同役をつとめ、またそのかたわら村庄屋をあわせつとめている。

資料は同家が堀川受持に任ぜられて以降の堀川関係の触書、達書諸帳簿、絵図などの原本、控、写で、現存する堀川関係資料では最もまとまったものである。

堀川　福岡藩によって開削された遠賀川の分水路。当初、中間・洞海湾間の計画で、元和七年（一六二一）起工されたが諸事情で中断宝暦十二年全工程が完成した。その後文化元年（一八〇四）分流地点が上流の楠橋に変更された。

平野文書



一田家文書

有形文化財（考古資料）

椎木山遺跡出土蔵骨器　七個
須恵質壺

所有者　国（管理者　北九州市）

椎木山遺跡（若松区蟹住に所在した鎌倉初期の火葬墓群。昭和五十一年、道路建設工事に伴い発掘調査した遺跡）から出土した蔵骨器。これらの蔵骨器は九州でもすぐれた内容をもつものとして貴重であるばかりでなく、中国製を含めた陶磁器をはじめ、多種多様な土器の使用は、鎌倉初期の葬制、社会背景及び編年等を解明するうえで重要なものである。

褐釉陶製長胴壺
青白磁壺
褐釉陶製水注
須恵質双耳壺
瓦質壺
土師質壺

所在地　戸畑区千防一丁目　市教育文化事業団　埋蔵文化財調査室

右　褐釉陶製双耳水注
左　須恵質壺

昭和53年度決算報告

収入の部	予算額	決算額		支出の部	予算額	決算額	
費目	金額	金額	明細	費目	金額	金額	明細
会費	606,000円	563,000円	会員 1,000円×350人＝350,000 賛助会員 10,000円×17口＝170,000 団体（一般） 3,000円×1団体＝3,000 団体（学校） 1,000円×40校＝40,000	報償費	30,000円	24,000円	文化財めぐり説明者謝金
				旅費	15,000	420	交通費
				需用費	540,000	381,736	文具費 39,516 食糧費 700 印刷費 323,590 写真代その他 17,930
雑収入	357,500	338,600	文化財めぐり参加料 297,500 書籍販売 40,400 年表その他 700	役務費	120,000	95,635	通信費 87,000 振替手数料 8,635
				使用料及び借上料	230,000	178,000	バス借上料 125,400 会場使用料等 52,600
利子	4,256	9,276	預金利子	事務局費	130,000	123,460	賃金等
前年度繰越金	262,244	262,244		予備費	165,000	0	
合計	1,230,000	1,173,120		合計	1,230,000	803,251	

≪収入・支出差引残金369,869円は翌年度に繰越し≫

昭和54年度予算

収入の部			支出の部		
費目	金額	明細	費目	金額	明細
会費	663,000円	会員 1,000円×450人＝450,000 賛助会員 10,000円×17口＝170,000 団体（一般） 3,000円×1団体＝3,000 団体（学校） 1,000円×40校＝40,000	報償費	40,000円	文化財めぐり説明者等謝金
			旅費	10,000	交通費
			需用費	570,000	文具費 45,000 食糧費 20,000 印刷費 490,000 写真代その他 15,000
雑収入	352,000	文化財めぐり参加料 351,000 年表その他 1,000	役務費	204,000	通信費 195,000 振替手数料 9,000
			使用料及び借上料	259,000	バス借上料 189,000 会場使用料その他 70,000
利子	5,131	預金利子	支部活動費	105,000	支部自主事業費 30,000円×3支部＝90,000 会報製作費 5,000円×3回＝15,000
前年度繰越金	369,869		事務局費	170,000	賃金等
			予備費	32,000	
合計	1,390,000		合計	1,390,000	